

標 題 : Neurotrophins' Modulation by Olive Polyphenols.  
オリーブポリフェノールによる神経栄養因子(ニューロトロフィン)の調節

---

著 者 : M. Fiore, et al. (イタリア CNR 細胞生物学・神経生物学研究所)

---

掲 載 誌 : Curr. Med. Chem. 2016 Jun 26. [Epub ahead of print]  
[印刷に先立つ電子出版 : 印刷版は同誌 2016;23(28):3189-3197.で、  
筆頭著者が V. Carito に変更され、要旨のはじめに (背景) を追加]

---

要 旨 :

(背 景) : ポリフェノールは、我々の食事に多く存在する微量栄養素としての栄養的な関心で最もよく知られて研究された分子に間違えないだろう。

地中海食事でポリフェノールの最も重要な食料源の一部は、オリーブおよびオリーブ油である。

ポリフェノール化合物は、酸化ストレス、炎症、アポトーシスおよびミトコンドリア機能障害の神経系の調節を通して複数病変で神経保護効果を有すると、動物モデルから臨床研究までの増加した証拠が示している。

目 的 : 最近の多くの科学文献に基づくと、ポリフェノールの食事摂取は酸化ストレスを弱めて、アルツハイマー病、パーキンソン病、脳卒中、多発性硬化症およびハンチントン病などの神経変性疾患に関連するリスクを低下させる。

また末梢では、それは抗酸化物として作用して、酸化損傷から組織を守りそしてフリーラジカルを捕捉する。

結 果 : 動物モデルおよびヒトにおける最近の研究結果が、ポリフェノールが神経栄養因子の値、特に神経成長因子(NGF)および脳由来神経栄養因子(BDNF)に関与する可能性があるを示すので、ポリフェノールも神経栄養因子作用の増強を通して保護作用を引き起こす可能性があるを示唆される。

神経の成長、増殖、生存および分化を促進するメディエーターとして最初に知られた NGF および BDNF は、代謝調節因子としても最近研究されて、グルコースおよびエネルギーの代謝、膵臓β細胞および心臓血管系の恒常性に作用する。

結 論 : この文脈において、神経栄養因子およびそのレセプター(TrkA、TrkB、p75NTR)に対するポリフェノールの作用をよく理解することで、薬剤の発見および神経疾患と心臓代謝性疾患の食事予防の可能性について関心を確実に引き起こす。

---